

Supervisionsseminar



*Unter der Leitung von
Univ.-Prof. h. c. Dr. Elisabeth Lukas*

*7. - 11. August 2017
Perchtoldsdorf bei Wien*

ペルヒトルズドルフ Perchtoldsdorf

ペルヒトルズドルフ（以下 P.と省略）はウィーンの南側境界に位置している。西側は「ウィーンの森」との境がある。この郡の中では、メードリング（Moedling）に次いで大きな町である。

この辺りは約 1500 万年前には海の波打ち際であった。1995 年にこの土地の地下から化石（ウニやサメの歯、貝殻など）が発見された。

今日知られているところでは、P.の平坦な部分ではすでに紀元前 6000 年頃、人が居住していた。考古学者の発掘では新石器時代の居住が証明された。またその後の発掘ではぶどう絞り機の一部が発見され、中世における産業の振興を推測することができる。



P.という名前は紀元 140 年に初めて公式に記されている。当時の居住地は今日のマーケット広場（Marktplatz）にある砦（ブルク Burg）を中心とした周辺であった。（皆さんのホテルはこの場所にあります）P.・ブルクには P.家の非常に強い権力を持った支配者がいた。その名前がどこから来るのか、歴史的には証明されていない。P.家の後で 1286 年に支配権はハプスブルグ家（オーストリーの皇室）に移行した。P.・ブルクはハプスブルグの未亡人たちの住む館として使われた。当時この土地は目覚ましい発展を遂げ、1400 年にはマーケット（市を開くことのできる）権利を獲得した。

マティアス・コルヴィーヌス（Matthias Corvinus 1458-90）のもとでハンガリーが東オーストリーを支配下に収めた時に、P.は痛手を受け、ブルクの支配者も何度か代わった。マクシミリアン（Maximilian 1493-1519）皇帝の代で、この土地はやっとまた復活することになる。防備のための塔（ヴェアトゥルム Wehrturm）が完成し、いくつかの市民の家も建てられ、今日まで残存している。（皆さんのホテルも同時のものかも知れません。とすれば、500 年くらい古い家ということになりますね! 当地で聞いて確かめてみてください。）

1529 年に第 1 回のトルコ進駐があった際に、この土地はほとんど破壊されたが、住民は防備の塔に逃れ、やっとの思いで難を逃れた。1683 年の第 2 回進駐の際には、すでにその前に衰退していた町は虫の吐息になったという。ほとんどすべての住民はオスマン兵士によって惨殺されたか、もしくは追放された。その後非常に長い時間をかけて修復が行われた。

17 世紀の終わりと 18 世紀前半には P.ではキリストの受難劇が上演されたと言う。19 世紀初頭にはそれまでプロテスタント信徒が優勢だった P.はカソリックの巡礼地となった。

19 世紀後半になって P.は夏の避暑地として人気が出て来たので、ブドウ畑の脇に多くの瀟洒な館も建てられるようになった。これらの家は今日もまだ使われている。

1938 年に P.はナチ独裁によってウィーン市に統合される。1946 年にその統合はまた解除されることになったが、当時のソ連の進駐軍はそれを阻止し、実際に解除になったのは 1954 年だった。第 2 次大戦の損害はここでは免れることができた。

現在の人口は約 1 万 5 千人。



提出事例

Y.T のケース…問題児に寄り添って

K.T のケース…発達障害者の精神次元

Y.K のケース…人格の自立

H.N のケース…逆説志向の適用

C.M のケース…撫順の奇跡

Y.S のケース…「メール相談に生かすロゴセラピー」の試み

K.M のケース…ロゴセラピーと日本社会

